

日本語を勉強しているみなさんへ

「ほんやくおもしろ文庫」は

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。
楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。
読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいですよ。
目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「ほんやくおもしろ文庫」4つのルール

- 1 ややこしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

おんな こ
女の子

作 (さく) : 橋爪 明子 (はしづめ あきこ)

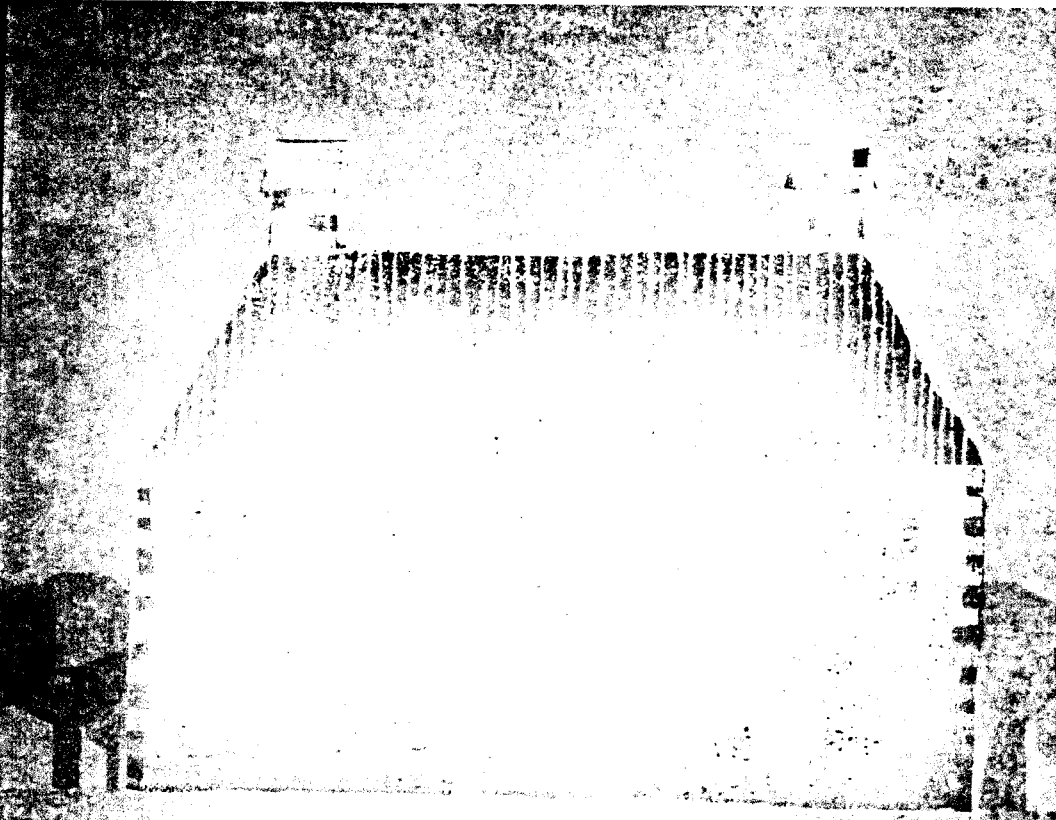
挿絵 (さしえ) : 鯨江 光二 (なますえ こうじ)

監修 (かんしゅう) : NPO法人日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

15-8894-08

562922

大きな家があります
とても大きな家です



大きい家の大きい部屋に、女の子がいます。

部屋には、ものがたくさんあります。

絵本もピアノもテレビもあります。

人形もあります。



でも、一つだけありません。

それは、「言葉」。

女の子は「言葉」を言いません。

そして、笑いません。

女の子の家には、お父さんもいます。

お母さんもいます。

でも、女の子は、いつも一人です。



隣の部屋から、

お父さんの大きい声。

お母さんの大きい声。

そして、ドアの音（パタン！）







古いアパルトがあります。

とても古いアパルトです。

お母さんと女の子は、

今、このアパルトにいます。

お母さんと女の子の部屋には、

何もありません。

女の子は、

毎日、窓から外を見ます。

自転車が走ります。

バイクも走ります。

おじいさんがいます。

おばあさんもいます。

子どももいます。

猫もいます。



ひとり おとこ
一人の男の子が、
まいにち がっこう
毎日、学校に行きます。
げんき おとこ
とても元気な男の子です。
「おはよう！」
おとこ
男の子は、おんなこ
女の子は、女の子に毎日、言います。
おんなこ
でも、女の子は何も言いません。



ある日、男の子は女の子に
言いました。

「はい、これ」



古いアパートの部屋には、
何もあります。

でも、女の子の手には、
小さい花があります。





「ありがとう」

いま、おんなこ
今、女の子は、

「言葉」を言いました。

Japanese Graded Readers

レベル別 日本語多読 ライブラリー



各レベル
5冊セットで
好評発売中

CD1枚
付き

レベル1が終わったら
次のレベルへ
ステップアップ!



公式サイトで
試聴・試読が
できます!

www.ask-digital.co.jp/tadoku

レベル1~4 / vol.1

レベル1~4 / vol.2

監修：NPO法人日本語多読研究会

◎各A5判、5冊/1ケース、CD1枚付き ◎各2,415円(税込み)

レベル1 vol.2



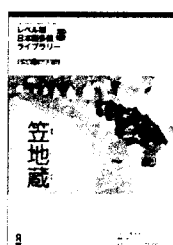
タクシー

木村さんはタクシーの運転手。ある日の夜、女の子が木村さんのタクシーに乗りました。木村さんのちょっと不思議な体験!



SUSHI
寿司・すし

世界中のみんなが好きな「すし」。すしの歴史、いろいろなすし、簡単なすしの作り方などを紹介します。



笠地蔵

明日はお正月。おじいさんは笠を売りに町へ行きますが、一つも売れません。帰り道、雪の中にお地蔵さまが六つ並んでいて……。



ジョンさん
バスの中で

留学生のジョンさん。いつもより少しおしゃれをして、バスに乗りましたが……。[バスの中で]

ジョンさんは、池袋から渋谷の学校まで、毎日電車で通います。昨日、友だちと飲みすぎて……。

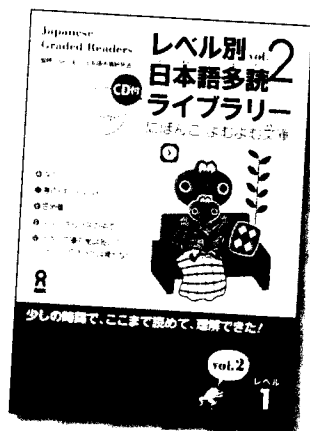
[今、何時ですか?]



猿の尾は短い?
どうしてクラゲは骨がない?

どうして日本の猿の尾は短いんでしょう? どうしてクラゲには骨がないんでしょう?

それは、何千年も前のこと……。日本の昔話です。



◎レベル1 vol.2 ISBN978-4-87217-641-4

●レベル1 vol.3は2008年 春に発売予定!

▶お問い合わせ 株式会社アスク出版 tel: 03-3267-6864 fax: 03-3267-6867
<http://www.ask-digital.co.jp>



<監修者紹介>

NPO法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」授業の実践・研究をしたりしています。<http://www.nihongo-yomu.jp>

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんごよむよむ文庫)

[レベル1] vol.1

女の子

2006年10月10日 初版 第1刷 発行

2008年 2月29日 初版 第2刷 発行

著者：橋爪 明子 (日本語多読研究会会員・日本語教師)

作画：鯨江 光二

監修：NPO法人 日本語多読研究会

ナレーション：篠原 明美

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：有限会社トライアングル

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えいたします。

©NPO法人 日本語多読研究会 2006

Printed in Japan ISBN978-4-87217-624-7



2570808900

うらしま たろう
浦島太郎

日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。

楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。

読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいですよ。

目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

再話(さいわ) : 栗野 真紀子 (あわの まきこ)
 挿絵(さしえ) : 山中 桃子 (やまなか ももこ)
 監修(かんしゅう) : NPO法人日本語多読研究会(にほんご たどく けんきゅうかい)

Knihovna FF MU Brno	
15-2900-08	
56 29 26	

「浦島太郎」は、日本の古い話です。

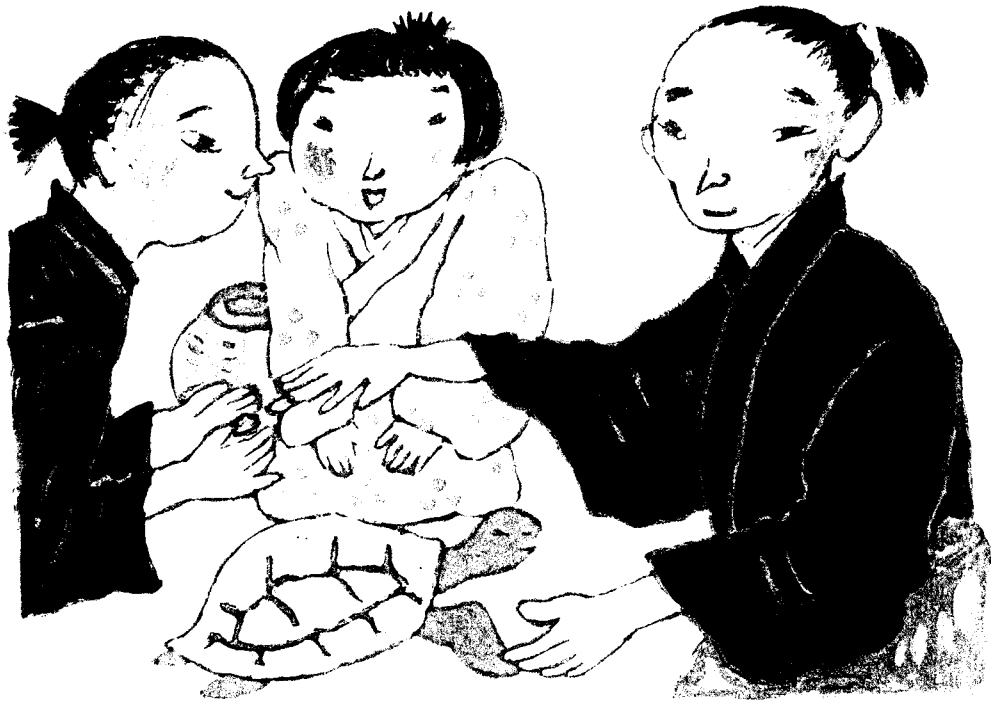
ここは、海の近くです。

太郎とお母さんのうちがあります。

太郎は、毎日、海へ行きます。

そして、魚をとります。





子どもたちは、棒で亀をたたきます。
「痛い！ 痛い！」
亀は泣きました。
太郎は、子どもたちに言いました。
「お金をあげましょう。」
私に、この亀をください
「本当？ いいよ」
子どもたちは、亀を太郎にあげました。



今日も、太郎は海へ行きました。
海に、子どもがたくさんいます。
子どもたちが、
棒で何かをたたきました。
亀です。



それから一週間。
太郎は、今日も海へ行きます。
いい天気です。
太郎は、今日も魚をとります。
そこに亀が来ました。
亀が言いました。
「あのときは、どうもありがとうございました。
ました。海の中に楽しいところ
あります。私と一緒に行きましょう。
さあ、どうぞ」
太郎は、亀に乘りました。



「どうもありがとうございました」
亀は言いました。
そして、海に帰りました。

かめ うみ なか はい
亀は海の中に入りました。

きれいな魚 さかな がたくさんいます。

「うわあ、海 うみ なか 中はきれいだなあ」



かめ たろう
亀と太郎は、大きい城の前に来ました。

「ここは竜宮城ですよ」

かめ い
亀が言いました。

りゅうぐうじょう
竜宮城はとてもきれいです。

たろう
太郎は、

かめ いっしょ
亀と一緒に竜宮城の中へ

はい
入りました。

そこには、

おんな ひと
とてもきれいな女の人がありました。

たろう
太郎は、亀に聞きました。

おんな ひと
「あのきれいな女の人は、誰ですか」

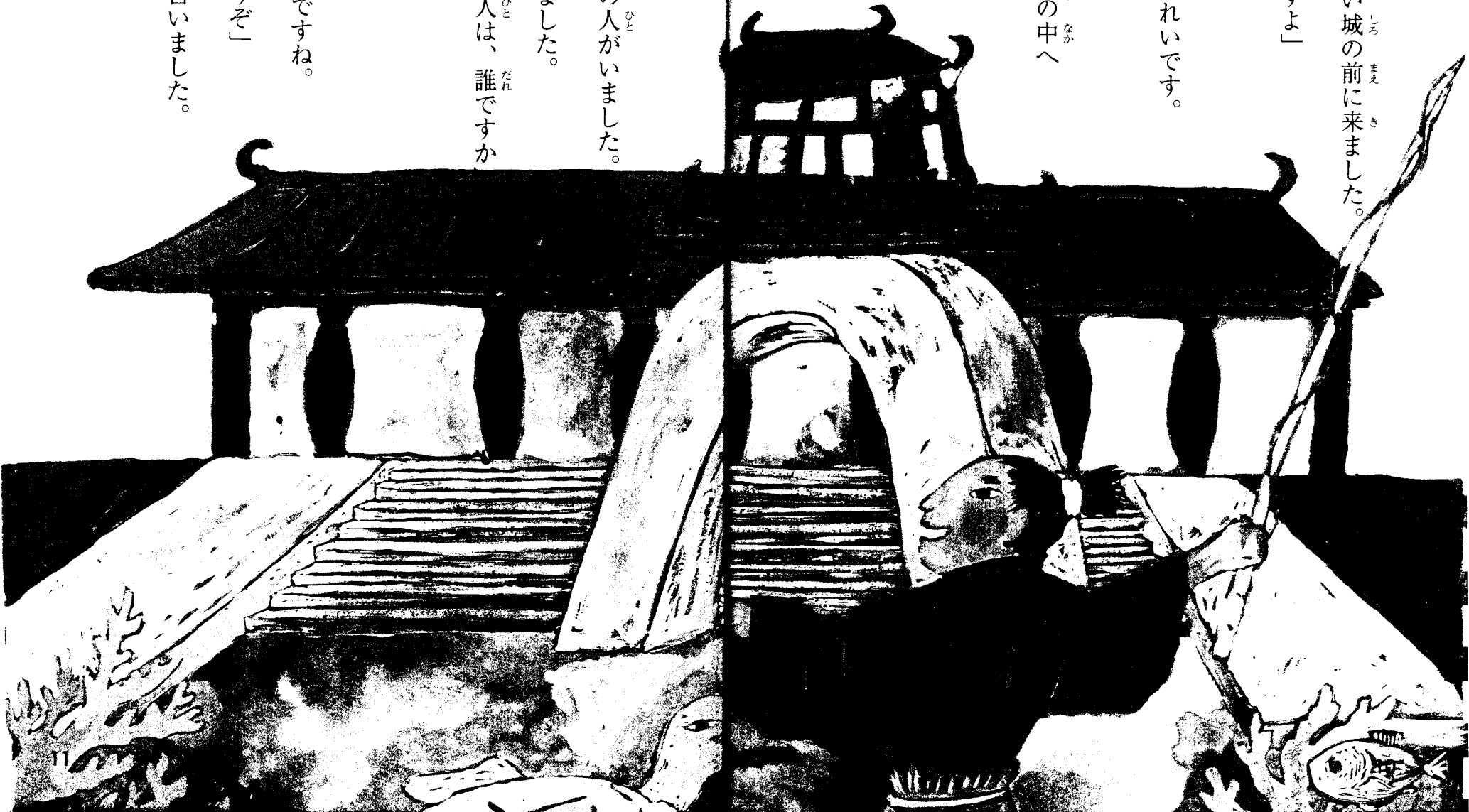
おとしめ
「乙姫さまですよ」

かめ こた
亀は答えました。

たろう
「あなたが太郎さんですね。」

さあ、こちらへどうぞ」

おとしめ
乙姫さまは太郎に言いました。





竜宮城には、おいしい食べ物やお酒がたくさんあります。

太郎は、毎日、乙姫さまと遊びました。

そして、おいしい食べ物をたくさん食べました。

おいしいお酒もたくさん飲みました。

毎日、とても楽しいです。

一週間、二週間……、一か月、二か月……、一年、二年……。



ある日、乙姫さまが言いました。

「太郎さん、元気がありませんね。」

あまり食べませんね。どうしましたか」

太郎は言いました。

「乙姫さま、私は、もう、

うちへ帰ります」

「えっ、どうしてですか」

乙姫さまは言いました。

「うちに、母が一人ですから」

太郎は言いました。

「そうですね。わかりました……。」

じゃあ、これをどうぞ」

乙姫さまは、

太郎に箱をあげました。

それは、とてもきれいな箱でした。

「ありがとうございます」

太郎は箱をもらいました。

「乙姫さま、ありがとうございました。さようなら」

「さようなら」

太郎は亀に乘りました。



太郎のうちの近くです。

太郎は亀から降りました。

そして、言いました。

「亀さん、どうもありがとうございました。」

さようなら」

「さようなら」

亀は竜宮城に帰りました。





太郎は、うちの方へ行きました。

でも、うちがありません。

「あれ？ 私のうちがありません」

太郎は、近くの人に聞きました。

「私のうちがありません。私の母もいません。私のうちはどこですか。」

母はどこですか」

その人は言いました。

「わかりません。百年前、ここにうちがありました。でも、今はありません」

太郎は言いました。

「えっ、百年前？ ……私は百年も竜宮城に ……？」

太郎には、もう、うちがありません。お母さんもいません。
太郎には、もう、何もありません……。

あつ、あります。一つだけあります。箱があります。

あのきれいな箱です。乙姫さまからもらいました。

——箱の中は何でしょう？——

太郎は箱を開けました。

「わーっ！」

煙です。

中から白い煙が出ました。



太郎は、もう、若くありません。白い髪のおじいさんです。

浦島太郎

文部省唱歌



- | | |
|--|--|
| <p>1 むかしむかし 浦島は
 助けた亀に 連れられて
 竜宮城へ 来てみれば
 絵にもかけない 美しさ</p> | <p>4 帰ってみれば こは如何に
 元居た家も 村もなく
 路に行きあう 人々は
 顔も知らない 者ばかり</p> |
| <p>2 乙姫様の ごちそうに
 鯛や比目魚の 舞踊
 ただ珍しく おもしろく
 月日の経つも 夢のうち</p> | <p>5 心細さに 蓋とれば
 あけて悔しき 玉手箱
 中からぱっと 白煙
 たちまち太郎は お爺さん</p> |
| <p>3 遊びにあきて 気がついて
 お暇乞も そこそこに
 帰る途中の 楽しみは
 土産にもらった 玉手箱</p> | |

太郎はどこへ行きましたか。
だれもわかりません。





2570808899

じょんさん にほんへ

日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。
楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。
読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいですよ。
目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

Masarykova univerzita Filozofická fakulta - Ústřední knihovna	
Príslo	15-8899-08
Sign	
System	56 29 25

作 (さく) : 川本 かず子 (かわもと かずこ)

挿絵 (さしえ) : みやかわ さとこ

監修 (かんしゅう) : NPO法人日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

いち これ^{だれ}は誰の本^{ほん}？

いま、ジョンさんは飛行機^{ひこうき}の中^{なか}です。
ジョンさんは、今年^{ことし}の四月^{しがつ}から、
日本^{にほん}の学校^{がっこう}で勉強^{へんきょう}します。



ジョンさんは、

かばんから漫画^{まんが}の本^{ほん}を出^だしました。
隣の女^{となりのおんな}の人^{ひと}も、

かばんから漫画^{まんが}の本^{ほん}を出^だしました。

ジョンさんと女^{おんな}の人^{ひと}は言^いいました。

ジョン 「あっ」

女^{おんな}の人 「あっ」

ジョン 「あな ほん
おんな ひと 同じ本^{ほん}！」
女^{おんな}の人



ジョンさんが言いました。

「これ、おもしろいですね」

女の人も言いました。

「ええ、おもしろいですね。」

私も大好きです」

女の人が聞きました。

「仕事ですか？」

「いいえ。四月から、東京で日本語を勉強します」

「東京ですか？ 私の家も東京ですよ」



だれかが言いました。

「あつ、富士山だ！」

「わあ、きれい」

女の人は、窓から外を見ました。

そして、ジョンさんに言いました。

「富士山ですよー」

「こちらの席へどうぞ」

「ありがとうございます」

ジョンさんは、窓から外を見ました。

「わあ、きれいですねー」



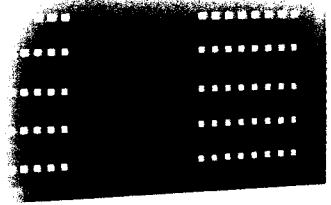
飛行機は日本に着きました。

二人は、漫画の本をかばんに入れました

そして、飛行機を降りました。

「そようなら」

「そようなら」



女の人は電車で家に帰ります。

電車の中で、

かばんから漫画の本を出しました。

「あれ？ 手紙？」

……あつ、これ、あの人の……。

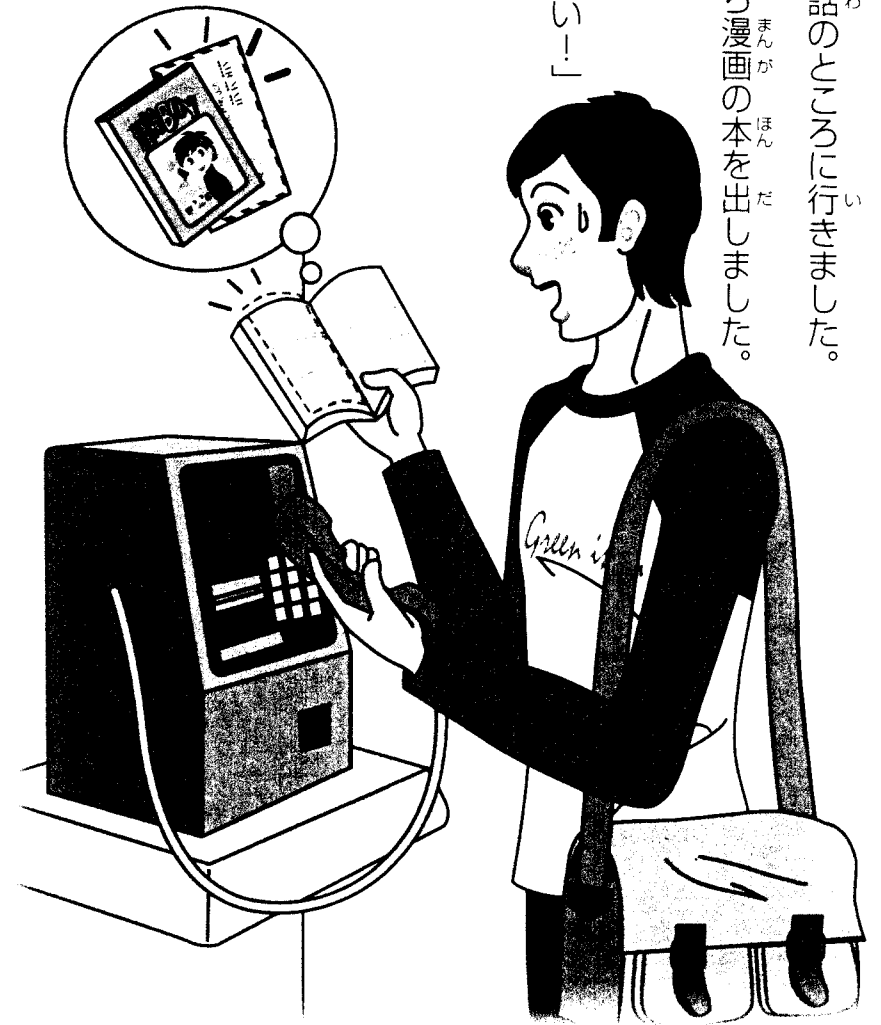
これは、あの人の漫画だ！」



ジョンさんは、電話のところに行きました。

そして、かばんから漫画の本を出しました。

「あれ？
手紙がない！」



二 今日、何月何日何曜日？

今日は、十月十一日、木曜日です。

ジョンさんは、ゆきさんと歌舞伎を見ます。

二人は、六か月前、

飛行機の中で会いました。



ジョンさんは、

銀座駅でゆきさんと会いました。



ふたり
二人は、歌舞伎座に着きました。



じょん
ジョンさんは、
いぐち
入り口でチケットを二枚出しました。



ゆきさんが聞きました。

「私たちの席は、

どこですか？」

ジョンさんが言いました。

「『九』の十五、十六……

あ、ここですよ」

二人は席に座りました。

歌舞伎は四時からです。

ジョンさんが言いました。

「今、まだ三時半ですから

コーヒーを飲みましょうか」

二人はロビーでコーヒーを飲みました。

ブー。

「四時五分前です。

ゆきさん、席に行きましょう」



『九』の十五、十六……あれ？」

二人の席に、

おじいさんとおばあさんがいます。

ジョンさんは、おじいさんに言いました。

「あつ、はいは、

『九』の十五、十六ですね。

私たちの席ですけど……」

おじいさんは言いました。

「『九』の十五、十六は、

私たちの席ですよ」

ジョンさんはチケットを見ました。

そして、言いました。

「え？ 私たちも

『九』の十五、十六です」

ゆき「え？」

おじいさん 「え？」
おばあさん



歌舞伎座の人が来ました。

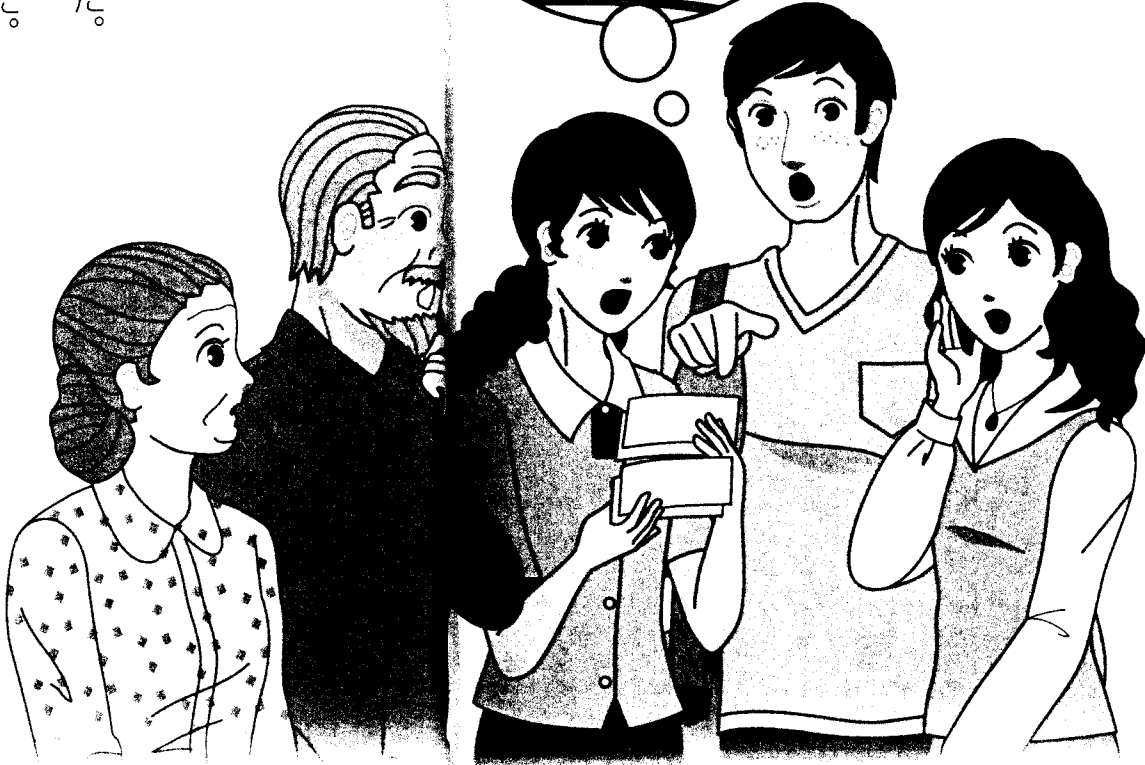
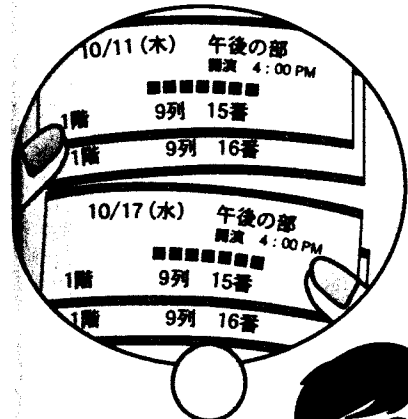
その人は、四人のチケットを見ました。

「『九』の十五、十六……同じですね」

歌舞伎座の人は、

またチケットを見ました。

歌舞伎座の人「あっ！」



歌舞伎座の人は、少し笑いました。

そして、ジョンさんに聞きました。

歌舞伎座の人「今日は、何月何日何曜日ですか？」

ジョン「十月十一日、木曜日です」

歌舞伎座の人「そうですよね。このチケットは？」

ジョン「十月十七日、水曜日……。あっ……ごめんなです」

ゆきさんは、小さな声で笑いました。



ブー。
歌舞伎が始まります。

ジョンさんとゆきさんは、歌舞伎座を出ました。
二人は、歌舞伎座の前で大きな声で笑いました。

<監修者紹介>

NPO法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを目的に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」授業の実践・研究をしたりしています。 <http://www.nihongo-yomu.jp>

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんご よむよむ文庫)

[レベル1] vol.1

ジョンさん日本へ

2006年10月10日 初版 第1刷 発行

2008年 2月29日 初版 第2刷 発行

著者：川本 かず子 (日本語多読研究会会員・日本語教師)

作画：みやかわ さとこ

監修：NPO法人 日本語多読研究会

ナレーション：篠原 明美 / 山中いっとく

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：有限会社トライアングル

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えます。

© NPO法人 日本語多読研究会 2006

Printed in Japan ISBN978-4-87217-624-7

日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんごよむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。
楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。
読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいですよ。
目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「にほんごよむよむ文庫」4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

はち はなし ハチの話

Knihovna FF MU Brno



2570808898

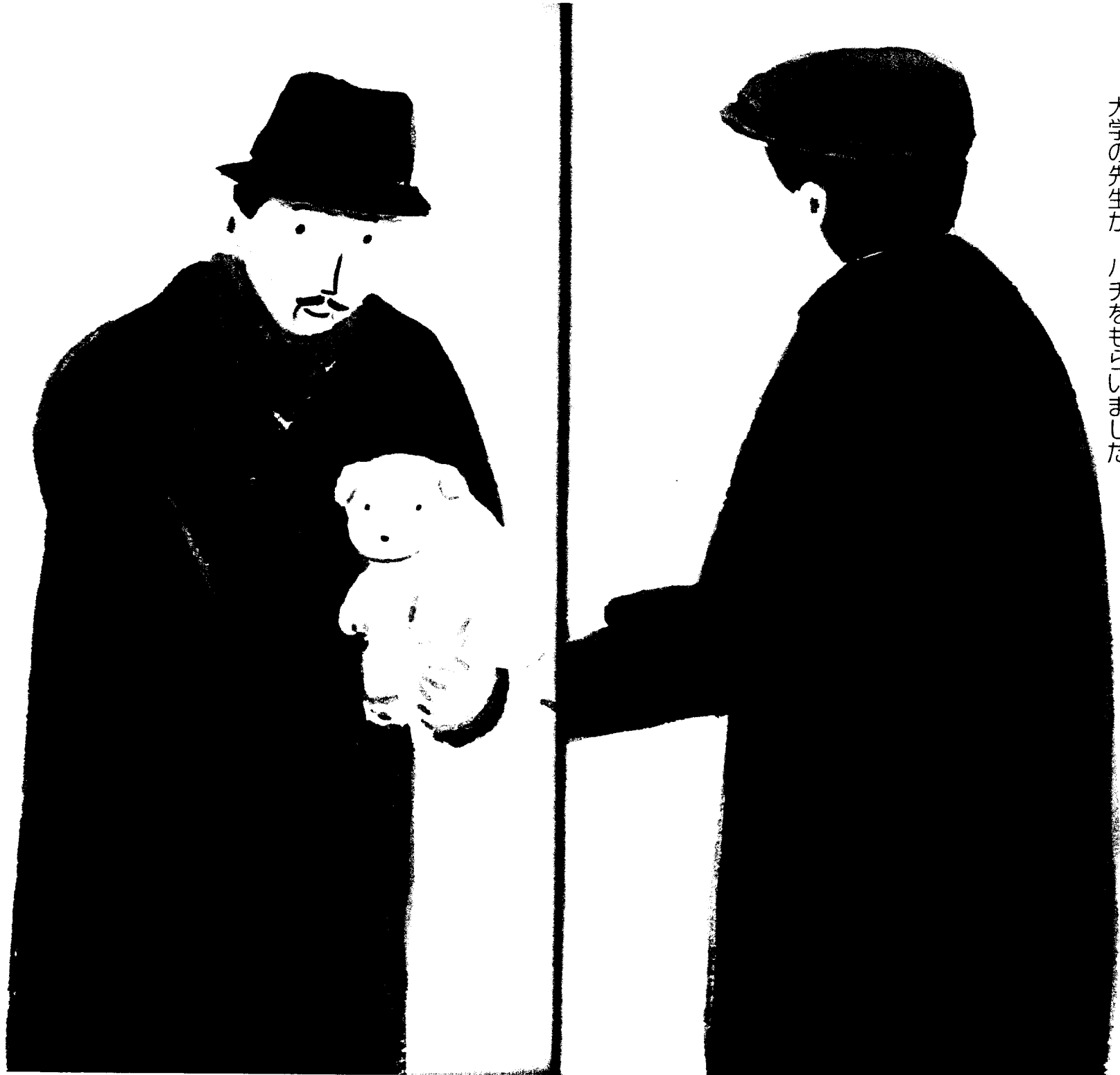
作 (さく) : 松田 緑 (まつだ みどり)

挿絵 (さしえ) : 佐藤 繁 (さとう しげみ)

監修 (かんしゅう) : NPO法人日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

ISBN	978-4-8898-08-08
発行	15-8898-08
発売	562924

「ハチ」は、子どもの犬です。
大学の先生が、ハチをもらいました。



はち せんせい
八手と先生は、一緒に遊びます。

はち せんせい
八手と先生は、一緒にご飯を食へます。

いっしょ
一緒にお風呂に入ります。

いっしょ
一緒に寝ます。



先生は、毎日、大学へ行きます。

八ちは、朝、先生と一緒に駅へ行きます。

先生は、渋谷駅で電車に乗ります。

「八ち、行ってきます」

「ワンワン」

八ちは、うちへ帰ります。





はち
八手は、夕方、渋谷駅へ行きます。

せんせい
先生が、電車を降ります。

はち
「八手、ただいま」

わんわん
「ワンワン」

はち
八手はうれしいです。

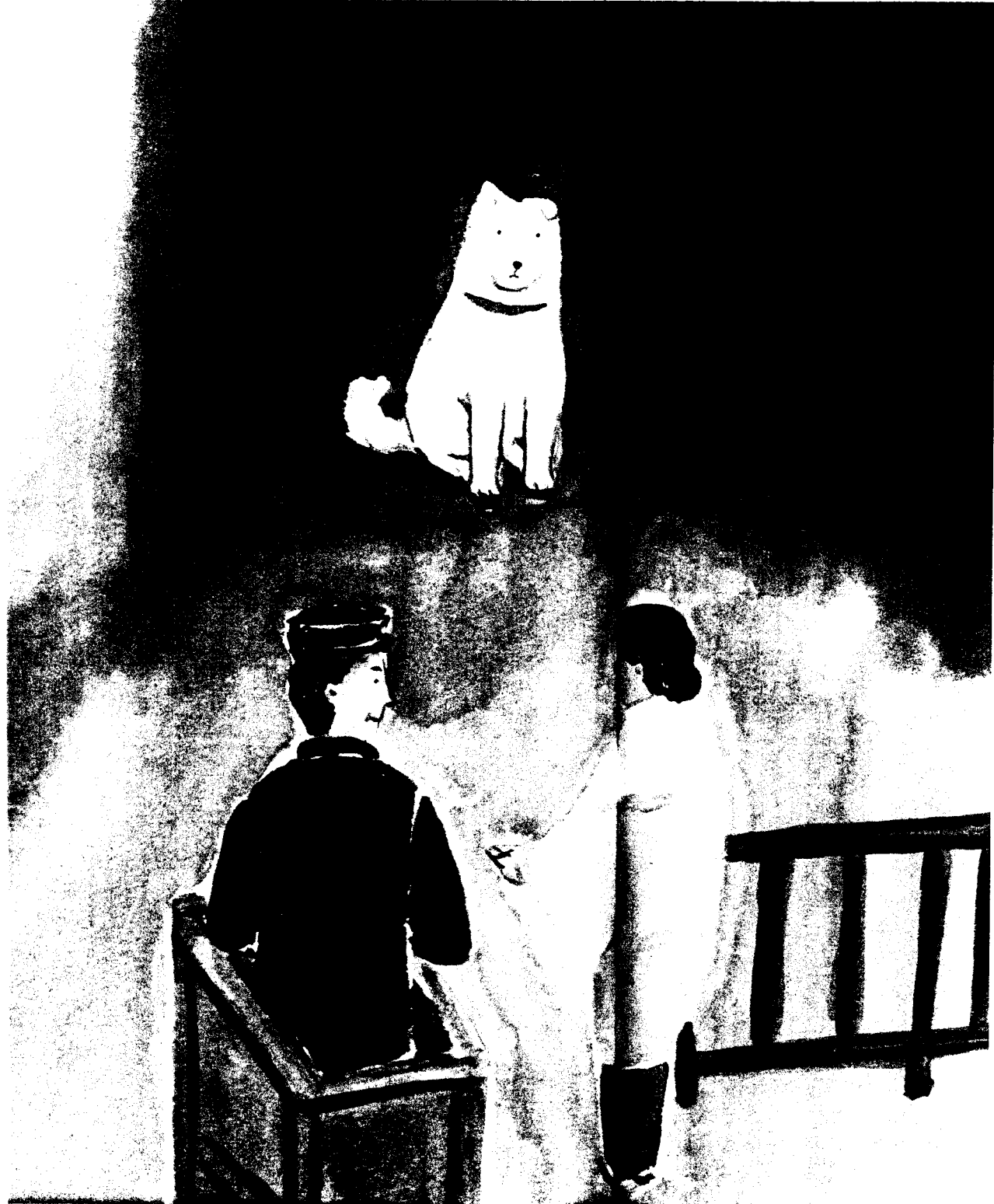
はち
八手と先生は、一緒にうちへ帰ります。

その日も、八ちは、朝、先生と一緒に渋谷駅へ行きました。

「八ち、行ってきます」

「ワンワン」

先生は、大学へ行きました。



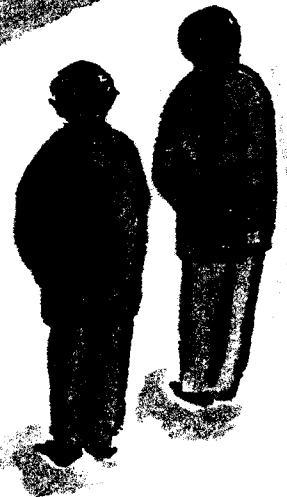
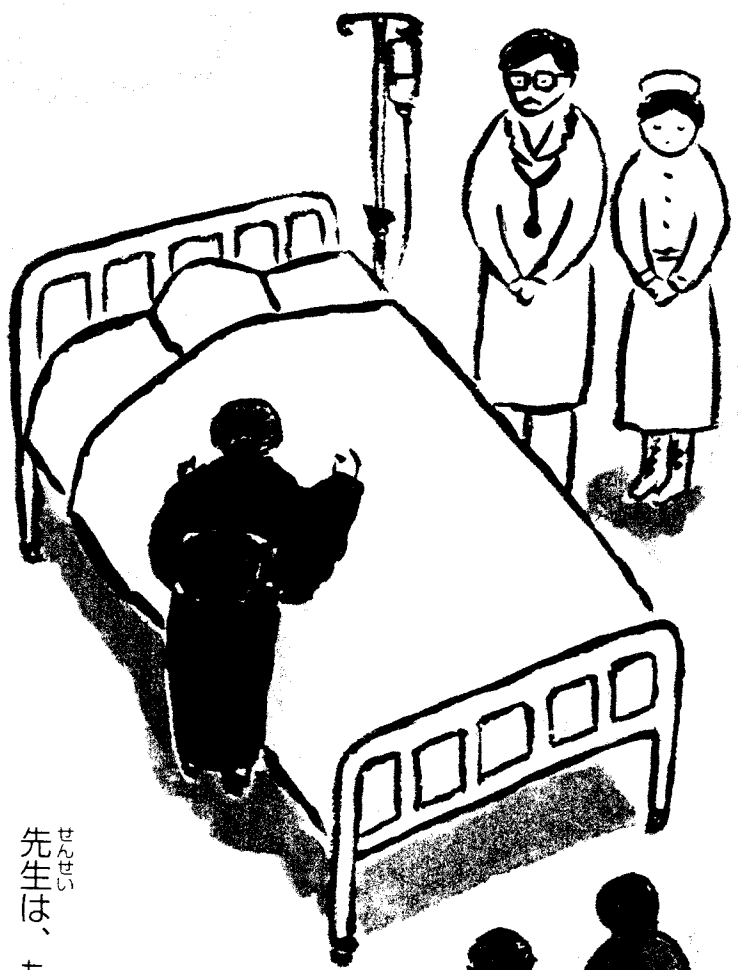
八ちは、夕方、渋谷駅へ行きました。
でも、先生は帰りませんでした。

せんせい
先生は、その日、

だいがく
大学で倒れました。

そして、

だいがく
大学から病院へ行きました。



せんせい
先生は、もう、帰りません。

せんせい
先生は、もう、いません。

でも、八手は、

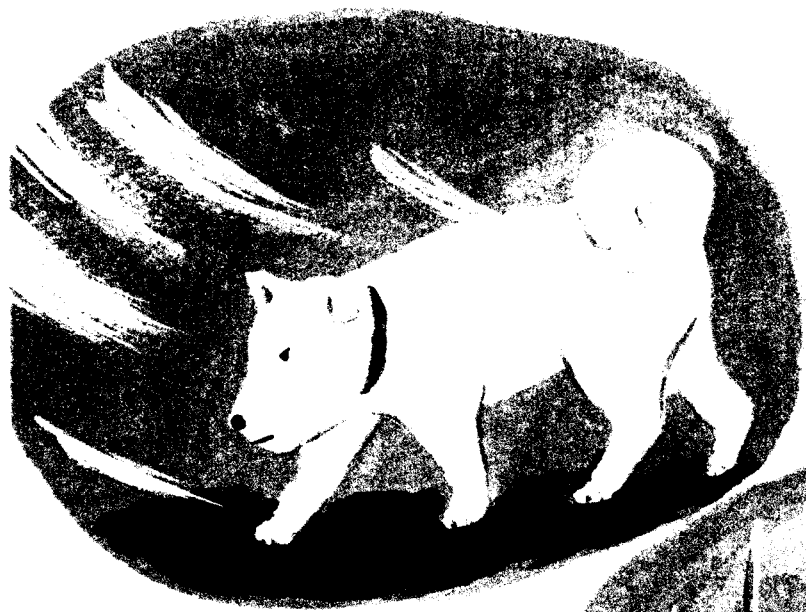
それがわかりません。

八手は、毎日、夕方、

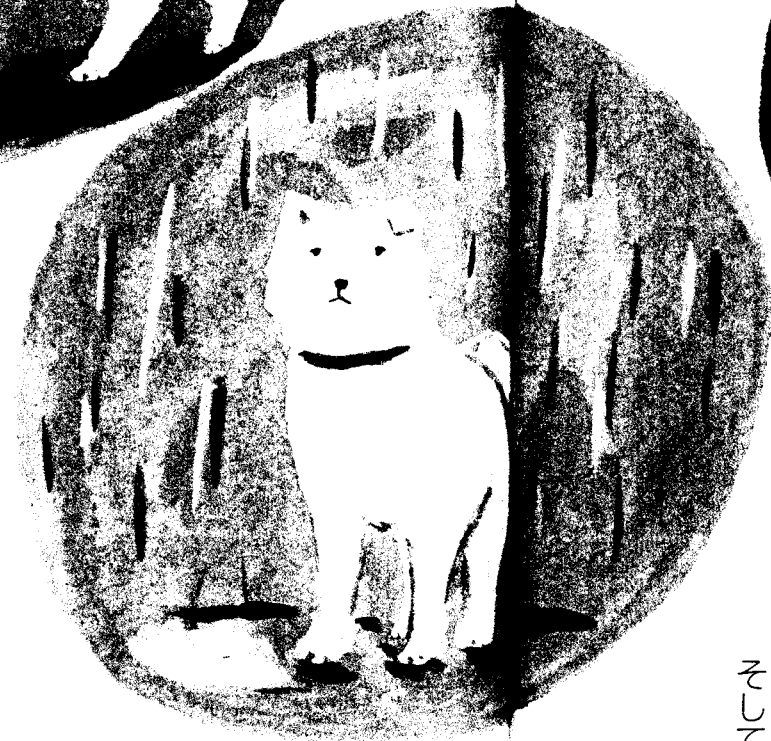
渋谷駅へ行きました。

そして、先生を待ちました。





雨が降ります。
雪が降ります。
風が吹きます。



電車が来ます。
先生は帰りません。
また、電車が来ます。
先生は帰りません。
夏が来ます。
秋が来ます。
冬が来ます。
そして、春が来ます。

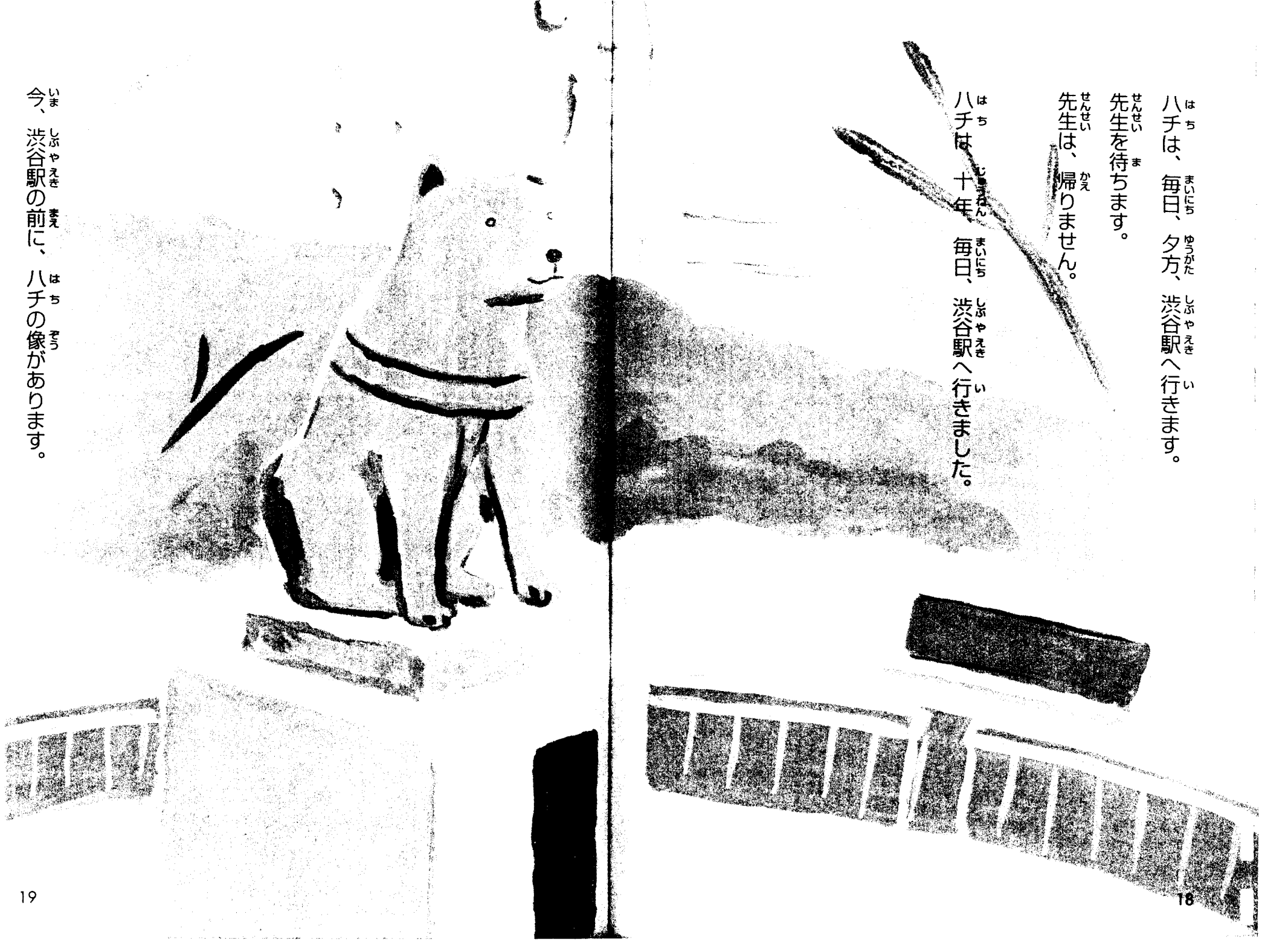
八手は、毎日、夕方、渋谷駅へ行きます。

先生を待ちます。

先生は、帰りません。

八手は十年毎日、渋谷駅へ行きました。

今、渋谷駅の前に、八手の像があります。



はち せんせい
八チと先生



はち 1923~1935年
(小林和子氏所蔵)



うえの ひでざぶろうせんせい
上野英三郎先生 1871~1925年
(小林和子氏所蔵)

はち しぶやえき
八チと渋谷駅

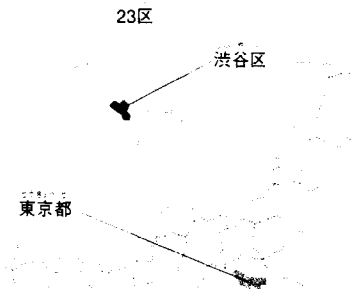


1920年頃の渋谷駅
(渋谷区郷土博物館・文学館所蔵)

改札で先生を待つ八チ
(小林和子氏所蔵)



「八チの話」の舞台・渋谷

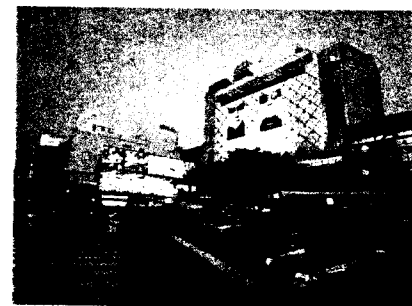


いま しぶやえき
今の渋谷駅

忠犬八チ公銅像



渋谷駅前



<監修者紹介>

NPO法人 日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

当研究会は、学習者のための「読みもの」を作ることを中心に、日本語教師が集まって、2002年1月に発足しました。2006年9月にNPO法人になりました。「レベル別読みもの」を開発したり、それらを使った「多読」授業の実践・研究をしたりしています。<http://www.nihongo-yomu.jp>

レベル別日本語多読ライブラリー (にほんごよむよむ文庫)

[レベル1] vol.1

ハチの話

2006年10月10日 初版 第1刷 発行
2008年 2月29日 初版 第2刷 発行

著者：松田 緑 (日本語多読研究会会員・日本語教師)

作画：佐藤 繁

監修：NPO法人 日本語多読研究会

協力：林 正春 (『ハチ公文献集』編者)

ナレーション：篠原 明美

録音・編集：スタジオ グラッド

デザイン・DTP：有限会社トライアングル

発行人：天谷 修平

発行：株式会社アスク出版

〒162-8558 東京都新宿区下宮比町2-6

TEL.03-3267-6864 <http://www.ask-digital.co.jp>

印刷・製本：株式会社光邦

許可なしに転載・複製することを禁じます。

乱丁・落丁はお取り替えます。

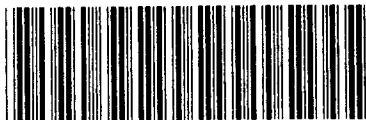
©NPO法人 日本語多読研究会 2006

Printed in Japan ISBN978-4-87217-624-7

<参考図書>

林正春編『ハチ公文献集』(非売品)

※この物語は、実話に基づいて書かれています。この物語の執筆にあたり、『ハチ公文献集』の編者である林正春氏には、多大なるご協力をいただきました。



2570808901

わら ばなし 笑い話

- ほし 「星をとる」 げんてん せいすいしょう (原典『醒醉笑』)
- はや 「だれが早い？」 げんてん たい みそす (原典『鯛の味噌津』)
- かね 「お金がありません」 げんてん きのふはけふのものがたり (原典『きのふはけふの物語』)
- みせ たいへん 「店は大変？」 げんてん きのふはけふのものがたり (原典『きのふはけふの物語』)

簡約 (かんやく) : 山崎 俱子 (やまざき ともこ)
 挿絵 (さしえ) : 霧生 さなえ (きりう さなえ)
 監修 (かんしゅう) : NPO法人日本語多読研究会 (にほんご たどく けんきゅうかい)

日本語を勉強しているみなさんへ

「にほんご」よむよむ文庫」は、

日本語を勉強しているみなさんのための「読みもの」シリーズです。
 楽しみながらたくさん読んでください。

やさしいものからたくさん読むと、知らないうちに漢字の読み方や言葉が身につきます。
 読んだ話をCDでも聴いてみてください。読みながら聴いてもいいでしょう。
 目からも耳からもどんどん日本語を吸収しましょう！

「にほんご」よむよむ文庫「4つのルール

- 1 やさしいレベルから読む。
- 2 辞書を引かないで読む。
- 3 わからないところは飛ばして読む。
- 4 進まなくなったら、他の本を読む。

Masarykova univerzita Fakulta filozofická, Ústřední knihovna	
Price	15-8901-08
Sign	
System	56 29 27

星をとる

夜です。

庭に子どもがいます。

空に星があります。

たくさんあります。

とくもきれいです。

子どもは空を見ます。

「いわあ、きれいな星！」



子どもは星がほしくです。

星がとりたいです。

棒でとります。

長い棒です。

「星がほしくー！」

星がとりたいー！」





お父さんが来ます。

そして、言います。

「だめだめ。その棒は長くない。短いよ。」

星は遠いよ。だから、だめだめ。そこはだめ。

「屋根の上がいよいよ」



だれが早い？

「いづす」は、春の鳥です。

春に鳴きます。

うぐいすの声は、「ホーホケキヨ」です。

とてもきれいな声です。

みんな、早くうぐいすの声が聞きたいです。

今年も春が来ました。



一郎の家に、

二郎、三郎、四郎、五郎が来ました。

五人は一緒にお酒を飲みます。

一郎が言いました。

「私は今朝、うぐいすの声を聞きましたよ。」

今年、私が「一番早い！」

二郎が言いました。

「いいえ。それは早くないですよ。私は

昨日の朝、聞きましたよ。私が「一番早い！」

次に、三郎が言いました。

「いいえ。それは早くないですよ。私は

一週間前に聞きましたよ。私が「一番早い！」

四郎が言いました。

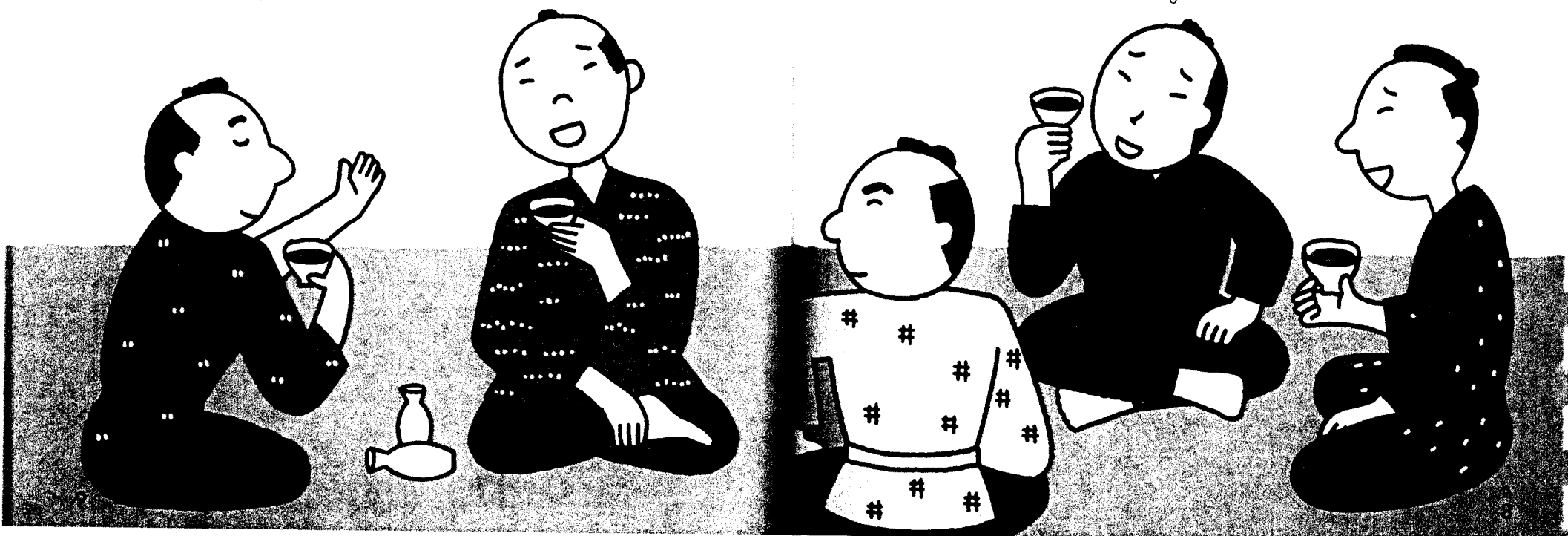
「それは早くない。私は一か月前に

聞きました。私が「一番早い！」

五郎が言いました。

「みんな、早くない、早くない。遅い、遅い。」

私は、去年の春に聞きましたよ」





毎まい日にちとくさんさんのひとが

あそびに来きます。

人ひと々々のあそびもあそびます。

あそびに来きます。

おか金ねがありません

これは、秋あき夫おと春はる子この

うちです。

うちのちか近かくに川かわがあります。

そこにふね舟ねがあります。

秋あき夫おのふね舟ねです。



春子はうちの仕事をします。

毎日、掃除をします。洗濯をします。

ご飯を作ります。

秋夫と春子は、二十年前に結婚しました。

春子は二十年前、きれいでした。

でも、今は若くないです。

もう、きれいじゃありません。

秋夫はもう、

春子が好きじゃありません。



ある日、秋夫は春子に言いました。

「あなたは、もう、きれいじゃありません。

私はもう、あなたが好きじゃありません」

春子は言いました。

「わかりました。

では、私はこのうちを出ます。

私の母はまだ元気です。

私は母のうちへ行きます」

春子は、きれいな着物を着ました。

化粧もしました。

今は、とてもきれいです。

春子は言いました。

「じゃあ、お母さん」

秋夫は春子を見ました。

そして、小さい声で言いました。

「春子はとてもきれいだー」

でも、春子は、今からお母さんの

うちへ行きます。



もう、このうちには帰りません。

—— 私が悪かった ——

秋夫は言いました。

「私も川まで一緒に行きます」

二人は川まで行きました。

いつも、秋夫の舟で、春子のお母さんのうちへ行きます。

春子は秋夫の舟に乗りました。

秋夫は春子に言いました。

「お金をください」

春子はるこが言いいました。

「え？ 私わたしは、お金かねがありません」

秋夫あきおが言いいました。

「お金かねがありません？」

そうですね。それではだめです。帰かえりますよ

秋夫あきおは、春子はること一緒いっしょにうちへ帰かえりました。

秋夫あきおはとてもうれしいです。



店は大変？

大きい店があります。

たくさんの方が店で働きます。

太郎も店で働きます。

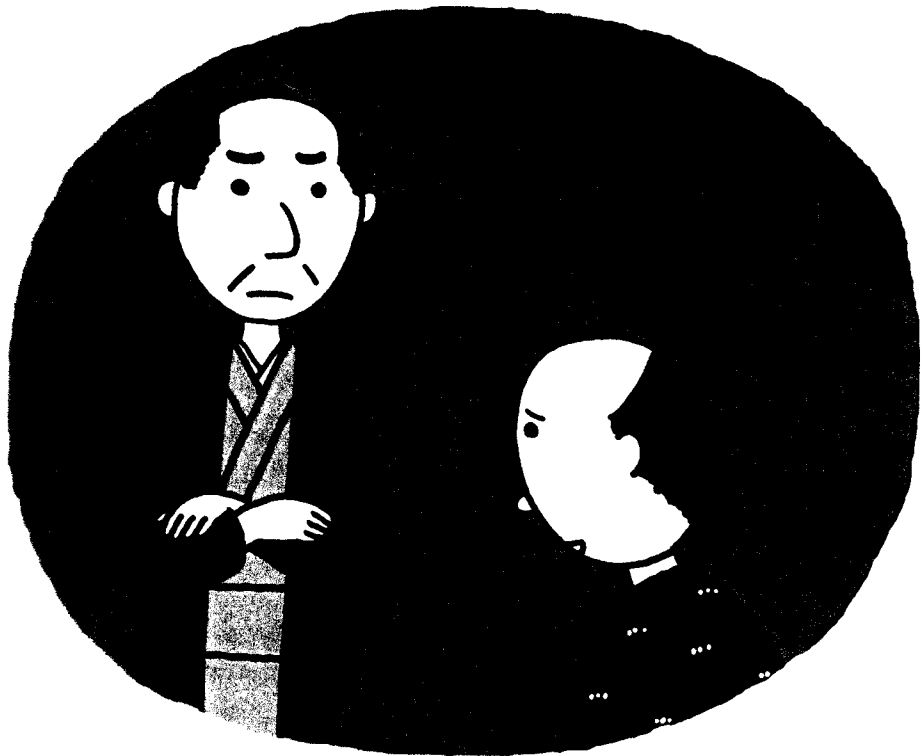
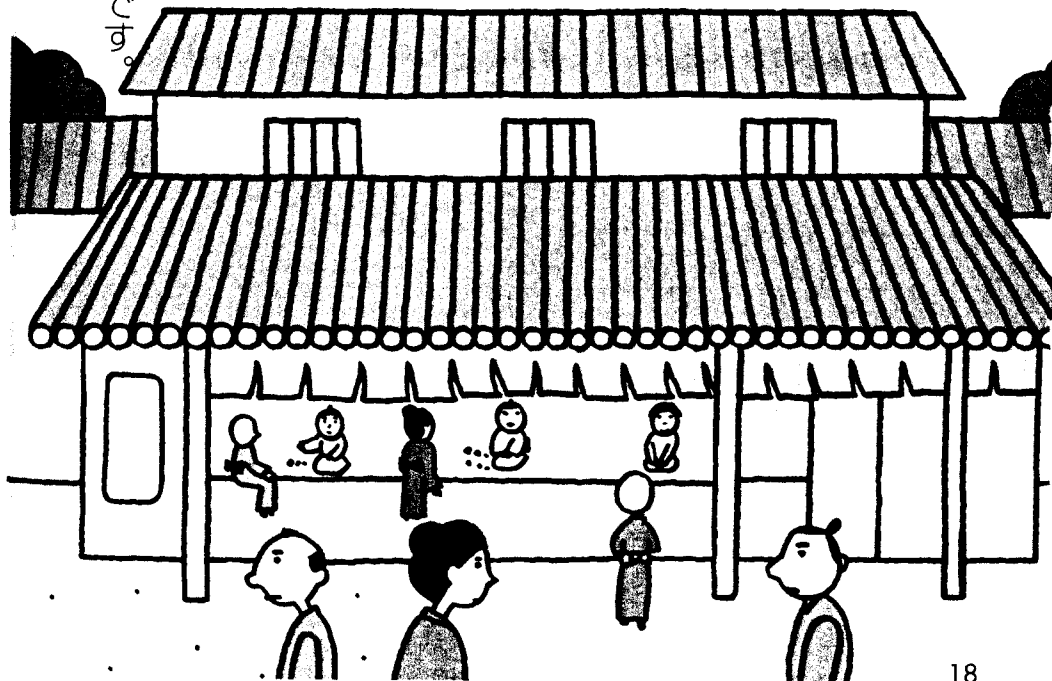
店はとても忙しいです。

太郎は、毎日、毎日、たくさん働きます。

朝から夜まで働きます。

とても疲れます。

でも、お金はあまりもらいません。少しだけです。



太郎は小さい声で言いました。

「楽しくないなあ。」

もう働きたくないなあ」

太郎は、夜、店で寝ます。

他の人たちと一緒に寝ます。

太郎は、うちで、一人で休みたいです。

一人で寝たいです。

次の日、太郎は店の人に言いました。

「私は病気です。うちに帰ります。」

今、太郎はうちにいます。

うちは山の近くにありますが。

とても静かです。

太郎は、夜、一人で寝ました。

次の日。

太郎は起きました。

もう、昼です。

太郎は言いました。

「お茶が飲みたいなあ」

でも、お茶がありません。

「ご飯も食べたいなあ」

でも、ご飯がありません。

何もありません。

太郎は川へ行きます。

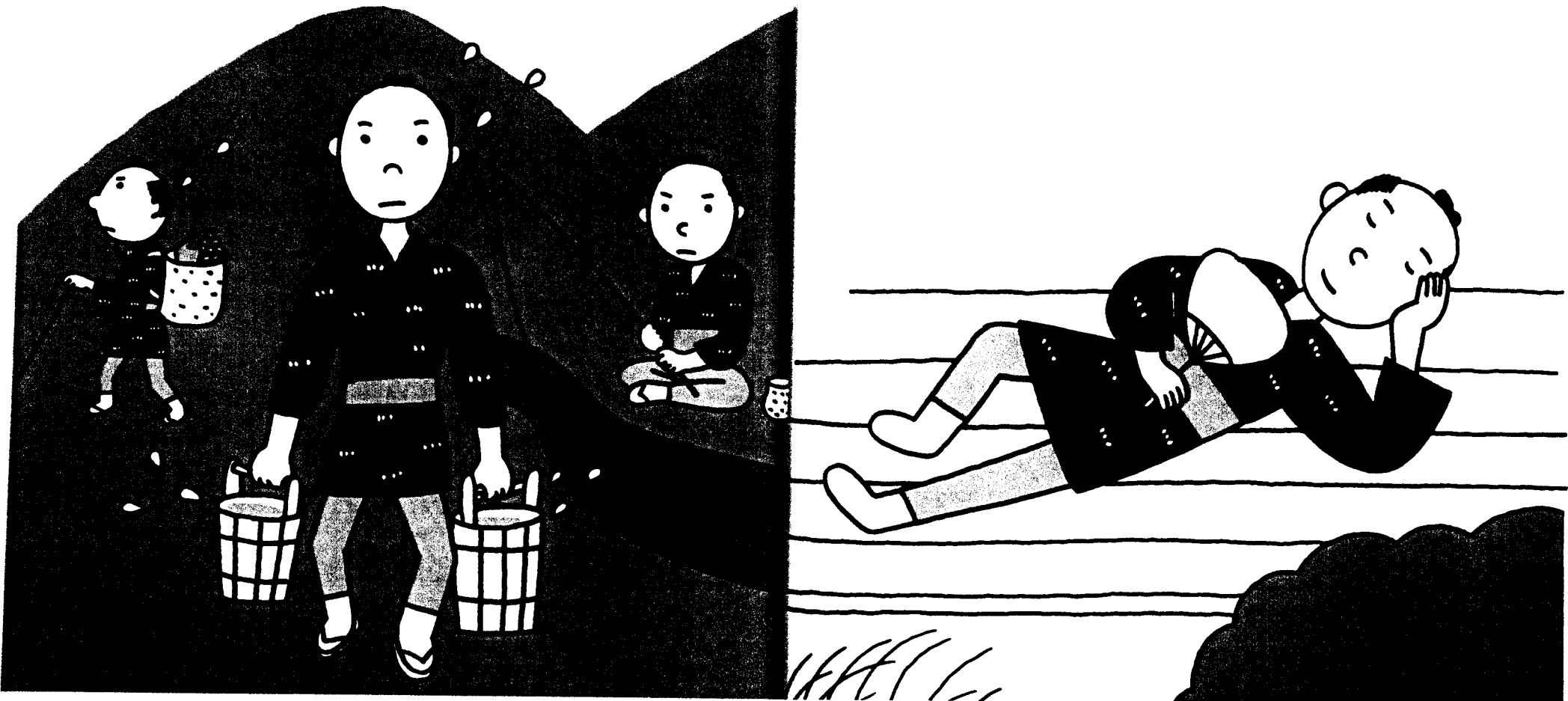
魚をとります。

太郎は山へ行きます。

果物をとります。

そして、うちへ帰ります。

料理をします。



料理は大変です。一時間……、二時間……。

「いただきます！」

次の日から、太郎は毎日、

川へ行きます。

山へ行きます。

料理をします。

掃除もします。

洗濯もします。

とても大変です。

楽しくないです！



太郎は言います。

「店には、いつも水があります。お茶もあります。ご飯もあります。

だから、私は川へ行きません。山へも行きません。

料理もしません。掃除もしません。

私は、店がいいです。私は、また店で働きたい！」